



6月28日 ヘルパーステーションハーツレクリエーション
於:セキアヒルズランチバイキング



「山の上から地域へ」 いよいよ地域移転 最終ステージへ！

理事長 叶 義文

猛暑も少しずつ落ち着き、秋を迎えようとしているこの頃、いかがお過ごしでしょうか。日頃より、あたたかいご支援とご理解を心より感謝申し上げます。

このたび、「恵愛ワークセンター」および「大牟田恵愛園クリーニング部門」が、長年の願いでありました「山の上から地域へ」の移転を、二〇二五年度事業として行うことが正式に決定いたしました。七年前の大牟田恵愛園入所・日中活動部門の地域移転に続き、今回、国からの補助金交付も認められ、いよいよ地域移転の最終ステージです。地域の中でより開かれた活動をめざすこの移転は、私たち法人にとって大きな前進です。しかしながら、補助金は事業費

第 112 号

社会福祉法人
キリスト者奉仕会

大牟田市新勝立町3丁目5番地15

大牟田恵愛園
恵愛ワークセンター
ハートンぼ
たんぼ
つくりの
ひかりの
森

の一部に過ぎず、移転には多くの費用がかかります。地域に開かれた新しい拠点の実現に向けて、引き続き皆さまのご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

今年一〇月一八日(土)には、「恵愛まつり」を開催いたします。テーマは「共に生きる出会いを求めて」。障がいのある人もない人も、誰もがその人らしく、共に生きる社会をめざす出会いの場として、多くの方々には法人の取り組みを知っていただき、笑顔とふれあいがある一日になるよう、準備を進めております。ぜひ、多くの皆さまにお越しいただければ幸いです。

さて、近年の我々を取り巻く状況は、あらゆる分野で人材不足が深刻な問題となつていきます。福祉の現場でも、利用者支援の質を保ちつつ職員を確保し、安定した運営を続けていくことは、日に日に難しくなつてきています。

また、この間、障がいのある人たちの働く場である就労継続支援A型・B型や、グループホーム、放課後等デイサービスなどの事業所が急増しています。数が増えれば選択肢が増えるからいいじゃないかという意見がある一方で、残念ながら、営利のみを目的とし、本来の支援のあり方から外れている

と感じられる事業所も見受けられます。暮らしの場・グループホームでも、利用者からの食費の着服やふさわしくない行為等、大きな社会問題となつております。また、事業所の数が増えすぎたことで定員割れの事業所も出てきており、必ずしも誠実とはいえない事業所の方が宣伝や職員採用が上手であるといった、いびつな現象も起こっています。まさに今、福祉の現場において「質」が問われている時代であると言えるでしょう。

こういう時代だからこそ、私たちは「障がいのある人を中心に据え、誰もがいきいきと働き、地域の中で安心して自分らしく暮らすことのできる社会」の実現という理念を、ぶれずに追い求めていかなければならないと強く感じています。

この理念に共感し、ともに歩んでくださる仲間、職員、そして地域の皆さまと手を携えながら、私たちはこれからも希望を持って歩んでいきたいと思っております。

皆さまの変わらぬご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。

平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。(聖書 マタイ五・九)

地域連携推進会議

つくしんぼ管理者 富安 妙子

近年、障害福祉サービスを提供する事業者が増えてきており、支援の質の確保が重要な課題となつています。

二〇二二年六月に取りまとめられた「障害者総合支援法改正法施行後三年の見直しについて」社会保障審議会「障害者部会 報告書」においては、「居住や生活の場であり、運営が閉鎖的になるおそれのあるサービス類型については、地域の関係者を含む外部の目を定期的に入れることが、事業運営の透明性を高め、一定の質の確保につながるものと考えられ、介護分野の運営推進会議を参考とした仕組みを導入することが有効と考えられる」との指摘がなされました。

また、二〇二二年一月には、障害者総合支援法等の一部を改正する法律が公布されました。この改正は、障害者や難病患者等が地域や職場で生きがい・役割を持ち、医療・福祉、雇用等の各分野の支援を受けながら、その人らしく安心して暮らすことができる体制の構築を目指すこととされています。このため、本人の希望に応じて、施設や病院からの地域移行、そ

のらしい居宅生活に向けた支援の充実が改正内容に盛り込まれています。本改正内容も踏まえつつ、利用者が地域で暮らしていける仕組みが求められています。

こうした背景を踏まえ、居住系サービスである障害者支援施設及び共同生活援助(グループホーム)において、各事業所で地域の関係者を含む外部の目を入れた「地域連携推進会議」を開催すること及び会議の構成員が事業所を見学する機会を設けること(それぞれおおむね一年に一回以上)が義務付けられました(二〇二四年は努力義務、二〇二五年度以降は義務)。

地域連携推進会議

【目的】

- ① 利用者と地域との関係づくり
- ② 地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進
- ③ サービスの透明性・質の確保
- ④ 利用者の権利擁護

【会議の構成員】

- ① 利用者(選定必須)
- ② 利用者ご家族(選定必須)
- ③ 地域の関係者(選定必須)
- ④ 福祉に知見のある方(選定任意)
- ⑤ 経営に知見のある方(選定任意)
- ⑥ 市町村担当者等(選定任意)

【会議の開催・内容】

- ① 施設等やサービスの透明性・質

の確保

・ 利用者の日常生活の様子について

・ 経営状況の報告

・ BCP(業務継続計画)の策定状況について

② 施設等と地域との連携

・ 障がいについてのレクチャー

・ 近隣からの苦情等の共有

・ 地域行事のご案内

③ 利用者の権利擁護

・ 虐待、事故、ヒヤリハットの報告・支援者の様子

・ 利用者の意向アンケート結果

当法人では障害者支援施設の大牟田恵愛園と共同生活援助(グループホーム)八ヶ所での地域連携推進会議を開催することになります。グループホームでは事業所番号ごとに開催する必要がありますので、八ヶ所それぞれのグループホームごとに会議を行います。

六月につくしんぼ小浜Ⅲ(定員九名)と小浜(定員九名)の会議を開催しました。小浜Ⅲは障がい支援区分五、六の方で全員車イス利用、夜間支援員を配置していますので、利用者、利用者ご家族、地域の方(大正校区街づくり協議会会長)、福祉に知見のある方(大牟田市社会福祉協議会職員)、市町村担当者(大牟田市役所福

祉課)の方にお集まりいただきました。第一回目の会議の為、共同生活援助(グループホーム)とはどういうサービスがあるのか、職員はどのような人がいるのか、利用されている人はどのような障がいがあるのか、行事はあるのか等会議参加者のみなさんで共通理解をしながら進めさせていただきました。その後、グループホーム小浜Ⅲを視察に行き、参加者の方から「居室もきれいで開放的な建物でいいところ。地域のみなさんにも情報共有していきたい」「外からしか見たことがなかったので、グループホームを見てよかった。入居条件などがありますか」「利用者さんとスタッフの関係性がいいと思いました」等の感想をいただきました。

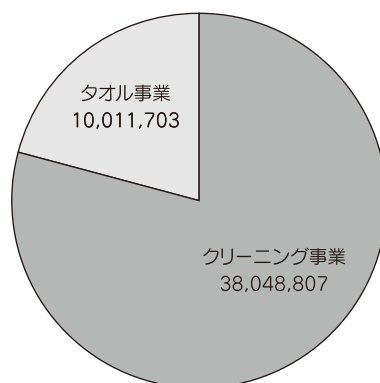
この会議を通して改めて、外部の方の目が入ることはとてもいいことだと感じました。私たち職員が気づかない事を教えていただいたり、逆に地域のみなさんに障がいのある方の生活の場を見ていただき、知っていただけのこと、利用者の方、ご家族の方の率直な意見を聞けること、またこの会議で新たな方との出会いがあり、障害福祉についての情報発信できる場もあると思っています。今後もみなさんの意見をいただきながらよりよい生活の場になるよう進めていきたいと思っています。

2024年度 社会福祉法人キリスト者奉仕会 就労事業実績

大牟田恵愛園

総事業収益
48,060,510円
(前年増減率0.1%減)

B型平均賃金月額
59,604円
(前年増減率3.9%増)

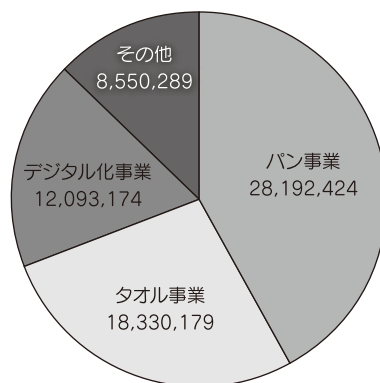


恵愛ワークセンター

総事業収益
67,166,066円
(前年増減率16.2%増)

A型平均賃金月額
120,555円
(前年増減率9.1%増)

B型平均工賃月額
45,575円
(前年増減率1.0%増)

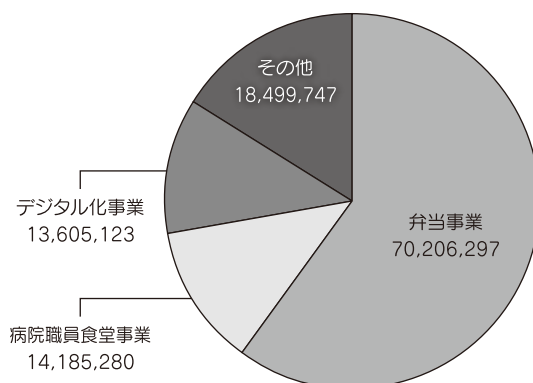


障害者就労・自立支援センター たんぽぽ

総事業収益
116,496,447円
(前年増減率27.4%増)

A型平均賃金月額
130,881円
(前年増減率7.9%増)

B型平均工賃月額
55,096円
(前年増減率1.9%増)



就労移行支援・就労定着支援実績

就職者数	5名
職場実習斡旋件数	25件
定着支援件数	335件



2024年度 社会福祉法人キリスト者奉仕会 決算報告

法人単位資金収支計算書

(自)令和6年4月1日(至)令和7年3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	14,829,500	14,819,649	9,851	
	就労支援事業収入	242,345,472	216,935,021	25,410,451	
	障害福祉サービス等事業収入	845,221,915	833,352,309	11,869,606	
	事業収入	1,009,344	323,000	686,334	
	私的契約利用料収入	19,500	43,500	△24,000	
	経常経費寄附金収入	2,526,285	2,291,345	234,940	
	受取利息配当金収入	353,617	416,026	△62,409	
	その他の収入	33,190,153	32,463,082	727,071	
	事業活動収入計(1)	1,139,495,786	1,100,643,932	38,851,854	
支出	人件費支出	580,019,717	566,405,951	13,613,766	
	事業費支出	83,882,031	76,962,832	6,919,199	
	事務費支出	94,960,451	77,053,604	17,906,847	
	就労支援事業支出	227,616,976	228,779,661	△1,162,685	
	支払利息支出	1,023,780	1,023,780	0	
	その他の支出	145,500	113,676	31,824	
	事業活動支出計(2)	987,648,455	950,339,504	37,308,951	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	151,847,331	150,304,428	1,542,903	
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入		949,888	△949,888	
	固定資産売却収入		3	△3	
	施設整備等収入計(4)		949,891	△949,891	
	支出				
その他の活動による収支	設備資金借入金元金償還支出	18,168,000	18,168,000	0	
	固定資産取得支出	18,052,933	20,121,884	△2,068,951	
	固定資産除却・廃棄支出	74,250	74,253	△3	
	施設整備等支出計(5)	36,295,183	38,364,137	△2,068,954	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△36,295,183	△37,414,246	1,119,063	
	積立資産取崩収入	5,756,560	33,727,770	△27,971,210	
	その他の活動による収入	618,000	618,000	0	
	その他の活動収入計(7)	6,374,560	34,345,770	△27,971,210	
	長期貸付金支出	1,800,000	1,800,000	0	
	積立資産支出	39,601,400	48,582,400	△8,981,000	
その他の活動による収支	その他の活動による支出	388,000	586,000	△198,000	
	その他の活動支出計(8)	41,789,400	50,968,400	△9,179,000	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△35,414,840	△16,622,630	△18,792,210	
	予備費支出(10)		-		
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	80,137,308	96,267,552	△16,130,244	
	前期末支払資金残高(12)	57,138,281	814,273,366	△757,135,085	
	当期末支払資金残高(11)+(12)	137,275,589	910,540,918	△773,265,329	

法人単位事業活動計算書

(自)令和6年4月1日(至)令和7年3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	14,819,649	15,118,149	△298,500
	就労支援事業収益	216,935,021	188,873,139	28,061,882
	障害福祉サービス等事業収益	833,352,309	793,720,649	39,631,660
	事業収益	323,000	590,000	△267,000
	私的契約料利用料収益	43,500		43,500
	経常経費寄附金収益	2,291,345	2,726,158	△434,813
	サービス活動収益計(1)	1,067,764,824	1,001,028,093	66,736,729
	費用			
	人件費	572,565,791	549,761,563	22,804,228
サービス活動増減の部	事業費	76,962,832	77,449,284	△486,452
	事務費	77,053,604	76,237,061	816,543
	就労支援事業費用	232,232,311	200,661,278	31,571,033
	減価償却費	62,647,437	65,454,953	△2,807,516
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△15,004,037	△16,747,796	1,743,759
	サービス活動費用計(2)	1,006,457,938	952,816,343	53,641,595
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	61,306,886	48,211,752	13,095,134
サービス活動増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	416,026	11,528	404,498
	その他のサービス活動外収益	32,463,082	31,882,245	580,837
	サービス活動外収益計(4)	32,879,108	31,893,773	985,335
	費用			
	支払利息	1,023,780	1,107,445	△83,665
	その他のサービス活動外費用	113,676	125,000	△11,324
	サービス活動外費用計(5)	1,137,456	1,232,445	△94,989
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	31,741,652	30,661,328	1,080,324
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	93,048,538	78,873,080	14,175,458
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	949,888	1,440,000	△490,112
	固定資産受贈額		277,200	△277,200
	固定資産売却益		149,996	△149,996
	特別収益計(8)	949,888	1,867,196	△917,308
	費用			
	固定資産売却損・処分損	1,238,482	518,794	719,688
	国庫補助金等特別積立金積立額	949,888	1,440,000	△490,112
	特別費用計(9)	2,188,370	1,958,794	229,576
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△1,238,482	△91,598	△1,146,884
繰越活動増減差額部	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	91,810,056	78,781,482	13,028,574
	前期繰越活動増減差額(12)	1,491,076,230	1,456,704,748	34,371,482
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,582,886,286	1,535,486,230	47,400,056
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)	32,451,210	6,713,210	25,738,000
	その他の積立金積立額(16)	41,061,000	51,123,210	△10,062,210
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,574,276,496	1,491,076,230	83,200,266

法人単位貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,058,888,563	896,021,436	162,867,127	流動負債	166,515,645	99,916,070	66,599,575
現金預金	732,948,013	726,779,533	6,168,480	事業未払金	76,726,987	57,768,565	18,958,422
事業未収金	130,114,424	128,827,920	1,286,504	1年以内返済予定設備資金借入金	18,168,000	18,168,000	0
売掛金	16,015,026	10,737,948	5,277,078	預り金	584,341	1,144,292	△559,951
立替金	17,736,451	3,824,358	13,912,093	職員預り金	6,625,704	9,837,844	△3,212,140
前払金	5,348,943	1,134,199	4,214,744	前受金	1,060,500	1,286,721	△226,221
仮払金	156,725,706	24,717,478	132,008,228	仮受金	63,350,113	11,710,648	51,639,465
固定資産	1,646,304,596	1,677,111,356	△30,806,760	固定負債	229,292,500	241,268,660	△11,976,160
基本財産	1,220,703,242	1,267,993,031	△47,289,789	設備資金借入金	194,720,000	212,888,000	△18,168,000
土地	319,108,546	319,108,546	0	退職給付引当金	31,928,500	25,768,660	6,159,840
建物	773,616,175	801,937,308	△28,321,133	敷金・保証金等預り金	2,644,000	2,612,000	32,000
建物附属設備	97,686,258	112,007,079	△14,320,821	負債の部合計	395,808,145	341,184,730	54,623,415
構築物	30,292,263	34,940,098	△4,647,835	純資産の部			
その他の固定資産	425,601,354	409,118,325	16,483,029	基本金	96,129,982	96,129,982	0
土地	280,000	280,000	0	第1号基本金	10,804,197	10,804,197	0
建物	11,827,124	13,426,570	△1,599,446	第3号基本金	85,325,785	85,325,785	0
建物附属設備	25,917,388	27,675,769	△1,758,381	国庫補助金等特別積立金	340,129,668	354,502,772	△14,373,104
構築物	7,303,934	5,552,480	1,751,454	その他の積立金	298,848,868	290,239,078	8,609,790
機械及び装置	17,167,806	20,419,210	△3,251,404	人件費積立金	5,000,000	5,000,000	0
車輛運搬具	12,823,114	7,289,873	5,533,241	修繕積立金	85,380,500	84,091,210	1,289,290
器具及び備品	15,776,952	16,637,217	△860,265	備品等購入積立金	59,880,500	64,760,000	△4,879,500
権利	912,168	912,168	0	施設・設備整備積立金	110,000,000	103,000,000	7,000,000
ソフトウェア	286,000	272,800	13,200	工賃変動積立金	5,364,600	3,464,600	1,900,000
長期貸付金	2,250,000	450,000	1,800,000	設備等整備積立金	33,223,268	29,923,268	3,300,000
退職給付引当資産	31,928,500	25,683,660	6,244,840	次期繰越活動増減差額	1,574,276,496	1,491,076,230	83,200,266
人件費積立資産	5,000,000	5,000,000	0	(うち当期活動増減差額)	91,810,056	78,781,482	13,028,574
修繕積立資産	85,380,500	84,091,210	1,289,290	純資産の部合計	2,309,385,014	2,231,948,062	77,436,952
備品等購入積立資産	59,880,500	64,760,000	△4,879,500	負債及び純資産の部合計	2,705,193,159	2,573,132,792	132,060,367
施設整備等積立資産	110,000,000	103,000,000	7,000,000				
工賃変動積立資産	5,364,600	3,464,600	1,900,000				
設備等整備積立資産	33,223,268	29,923,268	3,300,000				
差入保証金	279,500	279,500	0				
資産の部合計	2,705,193,159	2,573,132,792	132,060,367				



大牟田恵愛園

強度行動障害支援者養成研修に参加して

入所副責任者 下川 律子

自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動…福祉の仕事に就いて三年目、このような単語を耳にしたり使ったりすることはありますが、強度行動障害という言葉は聞いてもすぐには結びつかず、どんな障がいなのか簡単にはイメージができませんでした。ただ、問題行動をとられる利用者が身近におられるため、今回の研修はどのように考えるのか、どんな支援をすればよいのか、何かヒントを得られないかと思いつきながら受講しました。

まず捉え直す必要があったのは、この障がいには特別に配慮された支援が必要になつている状態を意味するという事です。もともとの障がいではなく、その人の状態であるということ。課題となつている行動は、個人の性質や傾向である特性（障がい特性）と環境のミスマッチから生じると習い、非常に驚きました。というのも、どう環境を整えるのか、特別に配慮された支援とはどのようなものなのか、想像がなかなかできなかったからです。ですが今回の研修での講義と演習を受

けてわかってきたことがあります。情報を収集し、集めた情報を整理・分析する。

目標を設定し、計画を作成する。そして支援計画書を作成し実践する。支援結果を記録し分析をする。そして改善・修正を繰り返す。まずは、支援をするにあたって必要な過程がわかりました。また、情報収集には行動記録用紙、行動をチェックするには特性に気づくきっかけとなる行動チェックシート、さらに課題となつている行動を確認する特性確認シート、その行動に必要なサポートを考える氷山モデルシートなどがあり、これらを使ってグループに分かれ演習を行いました。その中で見えないものや話し言葉の理解が難しいという特性があるのであれば、本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝えるサポートが必要であつたり、今やることを自分で判断するのが難しいのであれば、始まりや終わりを分かりやすくするなど具体的に知ることができました。

今回の研修を通して、本人の「強み」を支援に生かし「弱み」を支援者が配慮する、この取り組み視点が必要だという気づきと、日頃から強く感じている支援の難しさですが、支援は一人で行うものではなくチームプレイなのだということを再認識することができたことも収穫でした。チームにおける情報共有や連携の方法、日頃からお互いに頻繁なやり取りを行いながら、何より一人ではない心強さを支えにして、少しでも適切な支援に近づけていければと思います。

今山作業 日帰り旅行

作業部副責任者 蓮尾 由希子

二〇二五年六月一日土曜日に今山の利用者一四名、職員一〇名、計二六名で鹿本・植木方面に日帰り旅行に行きました。

現在、今山でクリーニングの作業を行っている利用者の方は二六名いらっしゃいます。毎年皆さんにアンケートを取り、日帰り旅行もしくは一泊旅行のどちらが良いのか、どのような場所に行きたいか、何をしたいかなどお聞きした上で行き先を決定します。ここ数年人気があるのは日帰り旅行の方です。アンケート実施後から、「日帰り旅行は六月だけど晴れたらいいね」とみんな話していました。ですが、残念ながら当日は雨模様。車に乗って移動中にはワイパーを使っても見えなくなるほどの土砂降りでしたが、目的地に着いて車から降りる時には雨が止んでくれました。その為「タイミング、バッチリね!」と雨についての話で車内が盛り上がりつていました。

午前中は、あんずの丘の伝承館にて陶芸の絵付け体験を行いました。各自マグカップやサラダボール、湯飲みなど事前に選んだ好きな陶器に絵を描きます。視力障がいがある方は、ある程度何を書きたいか職員と話されていますが、実際触ってみるとやっぱり違う感じにしようかな?と職員と話しながら作品を完成。マグカップを選んだ

人に関しては、取手の所が取れやすい為、握らないようにとの説明でしたが、触らずに絵を描く事が難しいと皆さん苦戦している様子もありました。一時間程制作し、最後には満足のいく作品ができたのではないかと思います。みなさん一ヶ月後に焼きあがった作品が楽しみだねつと笑顔が見られました。

昼食は植木インター近くの「Kitchen 明力里」に行きました。大通りから脇道に入つたところにあり、隠れ家のような可愛いお店でした。入口もバリアフリーで入りやすく、利用しやすいです。扉を開けるとおいしそうなケーキやカラフルなチョコがついたマフィンなど、きらびやかなスイーツが並んだショーケースがお出迎え。どれにするか悩みなからお土産に買って帰られる方もいました。今回の料理は、洋食がメイン!まずはサラダにスープ。ワンプレートに六種の副菜が少しずつ。みんな食べるのが大好きなので最初は足りるかな?とも思いましたが、オムライスにハンバーグにピザ、食後のデザート&飲み物と、帰る頃にはお腹いっぱいでした。

日頃はそれぞれの担当ごとに作業をする為、なかなか皆さんとゆっくりじっくり話しをする時間が取れませんが、でもこの旅行で日常の話しや家族のこと、今ハマっている事など楽しく話せて今回も有意義な時間になったのではないかと思います。来年はどこに行こうかな…何をしようかなと今から想いを巡らせています。

恵愛ワークセンター

デジタル化新ユニット

委託事業副責任者 渡邊 星子

恵愛ワークセンターの施設外就労では、たんぽぽ大牟田中央サテライトオフィスにてデジタル化事業に参加しています。二〇二二年六月から参加しており、今年度で四年目となります。現在ワークセンターからは、A型利用者三名、B型利用者八名、計十一名の方が働かれており、そのうちB型利用者六名は今年の六月から新たに参加された方々です。

デジタル化の業務は、主に国立国会図書館の本をデジタル化する作業を行っています。作業内容は大きく分けて「事前確認」「スキニング」「画像検査」の三つの工程に分かれています。事前確認は本の状態を確認し記録する作業、スキニングは専用のスキヤナを使って本をスキヤンする作業、画像検査はスキヤニングされた画像を目視で確認し、ゴミや撮影漏れ等がないか検査する作業です。ど

の作業も集中力と根気が必要とするため、精神的にも体力的にも容易ではありませんが、利用者の方々は毎日集中して作業に取り組まれています。

国立国会図書館の本が到着する前に練習用の本で何度も繰り返し練習を行いました。繰り返し練習を行うことで、最初は緊張や不安の表情を見せられていた利用者の方々も「疲れたけど明日も頑張る」「明日はミスがないようにしよう」「分かってきたからもう大丈夫」など前向きな発言をされるようになり、自信をもって作業に取り組まれているようで、とても心強く感じました。

国立国会図書館から本をお預かりして作業を行うため、注意点も多くひとつひとつの作業に責任を持って取り組む必要があります。特に、新たに参加された利用者の方々は環境も作業内容も変わり、大変に思うことや不安に思うことが多いかもしれませんが、これからも利用者の皆さんに寄り添いながら一緒に成長し、デジタル化事業をしっかりと支えていきたいと考えています。



ミニ運動会 開催しました！

委託事業副責任者 永野 祐真

梅雨の雨にも負けない熱気と笑顔で、施設内はまるで晴れ空のような明るさに包まれました！

六月一四日、ワークセンターでは職場レクリエーションにてチーム対抗のミニ運動会をリフレス大牟田で開催しました。今回は職員と利用者さんとでチームを組み、ボッチャとディスクゲッターナインの二種目で順位を競いあいました。

競技中は、チーム内の利用者さんと職員で作戦会議をしたり、初めてされる方には優しくやり方やコツを教えてあげたりと、勝利を目指して力を合わせる姿がたくさん見られ、どの対戦も白熱し大きな盛り上がりを見せました。

競技終了後は、みんなでおいしい昼食を囲みながらひと息。和やかな雰囲気の中「楽しかったね」「またやりたいね」などうれしい声も聞こえてきました。

そして、いよいよお待ちかねの順位発表。得点を集計し、優勝チームの発表をすると、名前を呼

ばれた方は、手をあげて喜んだり、照れくさそうに微笑んだり、それぞれの反応に会場はあたたかい拍手と笑顔に包まれました。

参加者全員に豪華景品も贈られ、最後までにぎやかで楽しい時間となりました。

帰りの車内でも興奮冷めやらぬ様子で、「あの競技が一番楽しかった」「またすぐにやりたい」という声があがり、中には「来年はこんな競技もやりたい」とすでに次のアイディアを話される方もいらっしゃいました。みんなで体を動かして、笑顔溢れる楽しいレクリエーションとなりました。

今後さまざまな行事を通して、笑顔と交流が広がるよう職員一同アイディアを出しあって全力で取り組んでいきたいと思っています。



ハーツ

レクリエーションに行ってきた

レクリエーション担当 平川 純子

今年のレクリエーションは昨年度バイキングが好評で、今回もセキアヒルズでのバイキング。食事だけではなく、日頃買物に行く機会がない利用者の方が多く南関にある、いきいき村での買物をバイキングの帰りに行くのはどうかと企画しました。①六月七日(土)、②六月二八日(土)セキアヒルズでバイキング、いきいき村で買物。③七月五日(土)ショッピングモールでの買物を三パターンで利用者さんに案内をしました。いきいき村での買物を楽しみにされている方が多く、ショッピングモールでの買物は数名だったのですが、六月七日(土)、六月二八日(土)バイキングと買物で決定しました。レクリエーションの日まで楽しみに指折り数える利用者様もいらっしやいました。

梅雨時で雨の心配をしましたが

両日とも晴天に恵まれ、皆さん笑顔いっぱい、久しぶりに会う利用者さん同士、久しぶりに会うヘルパーさんで話しが弾んで楽しまれていました。沢山並んでいる料理を見てお皿いっぱいに取り、おかわりされ、「お腹いっぱい」と言っては食後にはデザート「デザートは別腹やけん入るとよ」と言われ沢山おしゃべりしながら楽しまれていました。昨年はセキアヒルズ内でのお土産コーナーでお土産を買ってありましたが、今回はいきいき村でと考えてある方が大半だったようです。

写真撮影後、楽しみにされていたいきいき村に移動。いきいき村での買物はお客様が多かったが、ゆつくりいろんな物を見て「いっぱいあるね、何でも買いたくなるね」と買い物され、有意義な時間を過ごされました。帰り際には「今日は楽しかった。買物もできてよかった。ありがとう。来年も連れて行ってね。」と、満面の笑みで言われました。利用者さん、ヘルパーさんの笑顔が絶え間なく楽しいひと時を過ごせたことと思います。来年も予定を立て、利用者様に喜んで頂けるレクリエーションを企画したいと思います。

つくしんぼ

レクリエーション

レクリエーション担当 近藤 祐巨

先日、つくしんぼでのレクリエーションに参加致しました。今回のレクリエーションは小グループでの食事会という大きな括りのみを決定し、各グループホームにて何を食べたいのか希望を伺い利用者の方たちに自主的に内容を決めて頂きました。

各グループホームでは色々な意見があり、肉が食べたい・魚がいい・こっちは中華に行こう!・お好み焼きに行き鉄板を囲みワイワイしたい等々多種多様な意見が出され、行き先を決定していききました。

行く場所と日時が決まると楽しみにしてくださっている方たちが沢山おられ、支援に行くこと笑顔で今度楽しみなねーとお話してくれたり、ご飯何杯食べようかなど相談されたりと沢山のコミュニケーションのきっかけになりました。

今回各グループホームで日時がバラバラということもあり、平日仕事が終わって行くホーム、週末休みの

日にランチに行くホームと分かれていて、仕事が終わって行くホームではレクリエーションに出席する前にスムーズにお風呂に入って下さったり、お出かけの準備を迎えに行ったりにしっかり終えて下さっていたり皆さんに協力して頂き何のトラブルもなくレクリエーションができました。

準備段階では進行に不安もありましたが、当日はいつもの何倍もの笑顔や楽しそうな表情が多く見られ、安心すると同時にやりがいを感じました。職員と利用者間だけでなく利用者と利用者間で交流が広がっていく姿が印象的で、そのような光景を目の当たりにし、レクリエーションが単なる娯楽にとどまらずコミュニケーションや自己表現の場として大きな役割を果たしていることを実感しました。そして利用者と同じ空間同じテーブルで同じ物を食べることで、より共感性が生まれ、利用者の心を繋がりができるきっかけになると学びました。

今後も一人でも多くの方が参加してよかったと思える時間を作っていきたいと思っています。



障害者就労・自立支援センター

「たんぽぽ」

四月から就労移行統合
への新体制に関して

就労移行支援事業責任者代行

ヴァンデンブリック典子

二〇二五年度から不知火町にあるたんぽぽ大牟田中央サテライトオフィスの就労移行支援は八本町にあるたんぽぽ就労移行の一拠点へと統合いたしました。それに合わせ、八本町のたんぽぽで行っていた訓練を作業訓練型、サテライトオフィスで行っていた訓練を資格取得型と名称を変更し、引き続き支援を行っています。

旧サテライトオフィスの環境が慣れている利用者の方にとっては、大きな環境の変化が影響し体調を崩したり、気持ちが悪く着かず不安定になる方もいらっしゃいました。また、もともと作業棟にて訓練に取り組まれていた方々も、室内のレイアウトの変化により作業に支障が出ることもありました。そのため、利用者の方へは説明会の実施や個別面談を実施したり、環境整備を

行ったりとバタバタな中で統合でしたが、徐々に現在の形に落ち着きつつあります。一拠点になり、利用者の方々は扉一つの区切りで毎日異なる訓練を行われています。時には作業訓練型の方が資格取得型の英会話教室に参加されたり、ソサエティークラブ(コミュニケーションスキル向上の講義)に参加されたりと以前に比べて両者の交流は増えました。それにより双方の訓練中では見られない別視線からの利用者皆さんに対する「新発見」が沢山あります。例えば作業中は黙々と休憩時間でも一人静かに過ごされていた方が英会話教室には積極的に発言される様子が見られ、またソサエティークラブで行うボードゲームでは資格取得型の方が作業訓練型の方へゲームの進め方など自発的に丁寧に説明される姿が見られます。利用者の方を更に理解し強みを知る機会として、今後も活発に合同レクリエーションなど合同の活動を増やしていきたいと考えています。

「働く・暮らす」利用者インタビュー

Vol.11

「働く・暮らす」利用者インタビューも今回で第11弾となりました。障害者就労・自立センターたんぽぽでは障がいがある方の地域での「働く・暮らす」を支えることを事業運営の柱とし、就労継続支援A型・B型・就労移行支援・就労定着支援のサービスを展開しています。今回はデジタル化事業の就労継続A型で働いている利用者さんと、たんぽぽの就労移行支援を利用されている方のお二人にインタビューをおこない質問に答えて頂きました。

寺田 守男さん

所属：就労継続支援A型(デジタル化事業)

Q たんぽぽではどのような仕事をしていますか？

A サテライトオフィスでデジタル化業務をしています。本の撮影やデータ入力などが主な業務です。

Q デジタル化でやりがいがあると感じることは何ですか？

A 1000ページを超えるととても厚い本を撮影したときです。手間がかかりとても大変ですが、終わったあとの達成感はとても心地良いです。自分が一日あたりに作成できる数量が増えたときとても嬉しく思います。

Q お休みの日は何をしていますか？

A 仏教哲学にはまっているので、瞑想したり本を読んだりしています。集中して仕事をするのにとっても役立っていると思います。あとはジョギングやゆっくり寝ることも好きです。

Q 目標・やってみたいことは？

A 人気がある漫画本のデジタル化などをしてみたいです。自分が撮影した本をより多くの人に読んでもらいたいからです。あと、全国に13拠点同じ仕事をしている施設がありますが、負けないくらい技術を磨いて頼られる拠点になりたいと思います。

支援者より

デジタル化事業が開始した初年度から参加していただいているベテラン利用者さんです。難しい本、とても厚みがある資料を率先して撮影していただいています。2025年度も7月からはじまり約1か月がたちましたが昨年度よりも作業量が増加しておりとても頼りになる方です。過去最高の受注量となった今年度ですが、新規の利用者も多く参加されているのでぜひみなさんを引っ張ってほしいと期待しています。

荒木 大夢さん

所属：就労移行支援(資格取得型)

Q たんぽぽの就労移行の講義で有意義だと思う講義は何ですか？

A 火曜、木曜の午前中にあるデザイン講座です。自分自身がもともと絵を描くことが大好きなので得意な方かも知れませんが、自分の想像することや想いを絵やデザインで表現出来ることがとても楽しいです。

Q 職場実習をいくつか経験されましたが、「働く」ということについて何か変化や気づきはありましたか？

A 実習する前は、仕事をする自体全くイメージが出来ませんでしたし、具体的に「働く」って何だろうと思ってよくわかりませんでした。しかし、実習を経験するなかで、仕事をする意味や目的が徐々に理解出来るようになりました。自分にとって「働く」とは誰かのためになることや、自分と社会とのつながりだと思っています。また職種によって優先すべきことが異なり、事務職であれば個人情報や正確性、サービス業であれば気持ちよく商品をお客様に購入してもらうなどの気付きがありました。どの職種でも「働く」ということは大変責任感が伴うんだなと感じています。自分自身が働けるのか不安に感じる時もありますが、実習後の振り返りで「挨拶がとても良かった」「丁寧に集中した作業を見て安心して任せられた」など企業の方に言われると少し自信に繋がります。

支援者より

たんぽぽの就労移行支援を利用され、1年半が経たれました。利用当初は緊張が強く、なかなか自分の気持ちや意見を発表されることに戸惑いを感じられていましたが、徐々に環境や他の利用者の方に慣れられ、今では司会やプレゼンなど積極的に取り組まれています。また新しい利用者の方へ掃除の仕方など優しく丁寧に教えられ、真面目で優しく面倒見のいい性格が、実習先の企業の方々にも高い評価を得られています。たんぽぽ夏まつりではボランティアとして参加され、暑い中一生懸命頑張ってくれました。荒木さんのことを理解して下さり、荒木さんも働きたい!と思う会社にマッチングして欲しいと切に願っています。



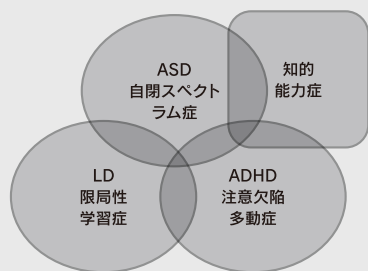
ひかりの森



ひかりの森スタッフ 学習会

「発達障がいへの支援」→基本的な考え方について。講師に合同会社ひらそる大牟田代表 叶真史さんを迎えて支援の基本について学びました。「発達障がい、ASD（自閉スペクトラム症）、ASDの学習スタイル、アセスメント、支援方法の具体例→基本的な考え方の例→、支援方法の具体例→専門的な考え方の例→、問題行動への対処」について詳しい解説、エピソードを交えて説明していただきました。

発達障がいイメージ図



「発達障がいの支援」 スタッフ学習会に 参加して

保育士 中垣 礼子

スタッフ学習会に参加して第一に思ったことは、発達障がいについて漠然と理解していたことが全く不十分であるということでした。発達障がいというワードで一括りにしていたものの中味は「知的認知症」「自閉スペクトラム症」「極限性学習症」「注意欠陥多動症」などがあり、これらの症状に数居は無く、複数の症状が重なり合っていることを理解しました。まずは、発達障害について正しく理解することが重要だと再認識しました。学習会後半の支援の方法の具体例については、実務についての実践編になるので、より一層興味を持って拝聴しました。担当している子どもたちがどのような特性を持ち、どのようなカテゴリに当てはまるのかを頭の中でイメージしていました。内容が濃くて、一度聞いただけでは理解できるものではありませんでした。復習しながら少しでも理解を深めたいと思います。

現場で子供たちと接していると、

その行動に驚かされることが多々あります。この場面ではこう行動するだろうと予測しても、全く外れてしまうことがあります。最大公約数の共通認識（一般常識）では計り知れないものがあります。子どもたちはそれぞれ個性の塊で彼らの側から見ると私たちの常識が変なのかもしれません。とは言え、最大公約数の社会に少しでも適応できるようにするよう支援していかなければならないと思います。そのためには、出来ない事や問題行動を一つ一つ矯正していくのか、はたまた、社会と自分の違いを理解させることによって改善を図るのか、正直まだよく分かりません。マニュアル的に対応すれば不可はないのですが、それでは人間味が無いように思います。かと言って、近すぎずともだめだと思えます。常に客観視できる距離感は保つべきかと思えます。支援によって改善できる目標値を私なりに設定して、日々、向き合わなければならぬと思います。

私は、当施設で働きだして二か月ほどの新前です。以前には保育園に勤めていたことがありますが、前職の経験は殆ど役に立ちません。今回お聴きしたことを基本にリカレントする思いで、子どもたちに

接したいと思います。貴重なお話をありがとうございました。



に協力ありがとうございました

■寄付金（一般、建設募金、友の会）

朝枝 順一郎、阿津坂 秀人、岩本 留
理子、江上 恵子、大久保 雅子、大牟
田めぐみ教会、大牟田防災工業、桂
君代、各務原バプテスト教会、上津
原 博子、叶 義文、小西 なほみ、古
賀 敬之、後藤 洋子、酒井 一俊、杉
野 有美子、杉山自動車、セブンイレ
ブン大牟田銀水店、谷山 恵一、豊蔵
緑、永野 はるみ、中島 恵子、日本バ
プテスト連盟諫山キリスト教会、西
日本医療センター、原 美枝、秦 葉
子、樋口 茂敏、府本幼稚園、ヘアサ
ロンタケスエ、前原 大作、眞柄 光
久、三木 洋子、芳川 勝、渡邊 一弘、
和田 緑、野田 健一、石井 則義、森
圭弘、武岡 達也



※順不同、敬称略

二〇二五年四月一日

二〇二五年七月三十一日

患愛友の会会員募集!!

「障害者福祉」の益々の充実を願いつつ、ともに歩み支えていただける会員を募集しております。

一 般 会 員	一口	500円/月
特 別 会 員	一口	1,000円/月
賛 助 会 員	一口	300円/月
団 体 会 員	一口	10,000円/月

※一人でも多くの人に会員になっていただきたいと願っております。どうぞよろしくお願い致します。

献金申込送金先

社会福祉法人 キリスト者奉仕会

〒836-0895
福岡県大牟田市新勝立町3丁目5番地15
大牟田患愛園 0944-51-8750

《銀行振込》 福岡銀行 大牟田支店
普通 2512469

《郵便振込》 郵便振替 01780 - 3 - 38380

※この献金は福祉事業活動のために活用させていただきます
※郵便振込用紙を入れていただきますので、献金される方はご利用下さい。

第39回

患愛まつり

共に生きる出合いを求めて

10月18日(土) 10:00~15:00

お楽しみ大抽選会

1等 佐賀牛 ステーキセット

※10:30~14:30まで抽選できます

ステージイベント

大牟田奏友会による演奏、
真心(ちむぐく)のエイサー等

キッチンカーもやってくる!!

抽選券付き前売りチケット 2,000円〈金券2,200円〉絶賛販売中!

※バザーの収益金は、大牟田患愛園(今山)・患愛ワークセンターの地域移転に活用させていただきます。